

# 指宿市及び入来町における独居高齢者の生活実態について

## － 高齢者が自立できる社会形成に関する研究 その2 －

友清 貴和・佐藤 洋一・久野 貴行・

古川 恵子\*

(受理 平成6年5月31日)

### A Study on the Life Circumstance of the Old Living Alone in Ibusuki and Iriki

#### － A Study on the Forming Society that the Old can live themselves, part 2 －

Takakazu TOMOKIYO, Youichi SATOH, Takayuki HISANO,  
and Keiko FURUKAWA

When we implement welfare measures for the old, we should carry out policies that show respect for them, and also create around them effective community support. If the old live alone, they should keep a good relationship with their communities, and at the same time, we must guarantee them a healthy, and comfortable life.

The purpose of this study is to recognize what the old need, and to suggest a plan of social policies and welfare measures to match them. In this report, we analyze actual life circumstances of the elderly using informations derived from the old living alone in Kagoshima, Ibusuki, and Iriki. We arrived at the following conclusions:

- 1) Living near a son or daughter has a good effect upon the old living alone.
- 2) Living alone gives them more freedom. Simultaneously, if they live alone, it's difficult for them in conveniences if anything should happen to them.
- 3) In their present houses, they experience many dissatisfied and dangerous points, but they don't improve them so much.
- 4) The environment around their houses may also be an undesirable.
- 5) The older female is more positive than the older male about human relations.
- 6) Most of the old living alone take financial support in all communities.

And welfare measures for the old are different among each of their communities.

## 1. 研究の目的

我が国の急速な高齢化は周知の事実であり、社会的にも高齢者問題がクローズアップされている。

現在の高齢者福祉政策を考慮すると、老人福祉法制定当時の『施設福祉サービス』を重視した政策では、今後のニーズに対応できない面がでてくる。そこで

『在宅福祉サービス』重視、またはそれらの同時並行（高齢者福祉十カ年ゴールドプラン等）に政策が転換されている。

また社会背景として、伝統的な居住形態として親世帯と子世帯が「同居」することが（住宅事情もあいまって）言わば当然とされて来たが、近年、世帯の独立性・自立性を求めるため、別居・独居希望が都市圏を中心

に増え始めている。

高齢者自身、今後の生活において、自ら意志決定を行い、日常生活における他人への依存を最小限にするため、自分の納得できる選択に基づいて自力で生活することを要望している。

こうした要望に対する回答としては、行政による公的な支援は不可欠な要因であるが、高齢者自身を取り巻くコミュニティ環境がより重要な要素になってくる。

かりに高齢者が独居生活を営むことになっても、上記の要望を継続的に維持でき、コミュニティと良好な関係を保ちながら、健康で快適な生活が保障されなければならない。

本研究は、現在の社会状況を把握し、高齢者に関して社会のメカニズムを体系化し、こうした社会に対応する社会政策・高齢者福祉政策の方策を見いだそうとするものである。

前稿<sup>\*2</sup>においては、鹿児島市の独居高齢者に関して、調査・分析を行い、次のような知見を得ている。

- ① 行政との関係において、年金・生活保護など経済的支援が独居高齢者の生活を支える要因となっている。
- ② 子どもとの対面周期、子どもの別居距離が独居生活に対する心理的側面に影響を与えている。
- ③ 友人数は隣人関係の内容にあまり関係しない。同じ地域活動の友人より、同じ趣味活動の友人をより親しく感じている。
- ④ 独居理由について、本人の意思、子世帯との関連に関係ない「家(本家)や墓といった守るべきものの存在」が一因子として存在している。
- ⑤ 対人関係(隣人・友人)において、男性より女性の方が積極的な付き合いとなっている。
- ⑥ 独居高齢者には『だれからも束縛を受けない自由な生活スタイル』が存在している。しかし、基本的行動事項(起床・食事・就寝)については規則正しく守っている。

これらは、独居高齢者の生活実態の特徴を把握する事はできたが、鹿児島市という都市の性格の強いコミュニティ環境の中から得た一知見にすぎない。

そこで本稿では、コミュニティ環境が異なると思われる指宿市及び入来町において独居高齢者に実施したヒヤリング調査をもとに、これらの独居高齢者の生活実態を把握し、鹿児島市の調査結果を含めた分析を行い、独居高齢者に関する見解を見いだそうとするものである。

## 2. 研究の方法

研究にあたっては、以下のような方法で調査分析を進めた。

- ① 調査対象者は独居の65歳以上の高齢者とした。
- ② 調査地域については、鹿児島市における独居高齢者を取り巻くコミュニティを、都市型コミュニティととらえ、農村型コミュニティを形成していると思われる市町村として入来町、両方の性格を兼ねたコミュニティを形成している市町村として指宿市を選定した。【表1】
- ③ 各市町の役所から対象者をランダムに紹介してもらい、ヒヤリング調査を行った。
- ④ 調査結果を地域別・年齢階級別・性別、さらに特徴的なことがみだせる項目については別のカテゴリーで分析を行った。
- ⑤ ④の分析結果をもとに、各市町の独居高齢者がどのような特徴をもつか究明する。

## 3. 調査の概要

ヒヤリング調査の回答を得ることができたのは、指宿市51人、入来町48人であった。【表2】

調査項目及び主な調査結果(単純集計)は以下のとおりである。【表3】

- ・独居高齢者の対人関係(子ども・隣人・友人)
- ・個々の生活要素について

健康状態 福祉サービスの利用状況 経済状況  
趣味 生きがい 買い物圏 隣人関係 ペット  
墓参り 就業 時間帯別生活内容(日、週、月間、年間別行事)

【表1】 指宿市、入来町の現況

指 宿 市	入 来 町
高齢者人口5976人	高齢者人口1606人
高齢化率18.7%	高齢化率23.9%
高齢単身世帯数1062世帯	高齢単身世帯数313世帯
単身高齢率22.1%	単身高齢率28.5%
温泉券・乳酸飲料等を配布	温泉券・乳酸飲料等を配布
高齢者の1戸建持家率92.0%	高齢者の1戸建持家率93.6%

【表2】 調査結果の状況

(単位:人)

年齢区分	調査数	性 別	調査数	調査地区	調査数
65～69歳	14	男 性	21	指宿市	51
70～74歳	35	女 性	78	入来町	48
75～79歳	31	調査対象者男女比 21:79 調査対象者平均年齢 77.2歳			
80歳以上	19				

【表3】 調査項目及びその主な調査結果

調査項目	回答項目	指宿	入来	(単位：人)			
住居形式	持家持地	47	44	調査項目	回答項目	指宿	入来
	持家借地	1	0	隣人と の関係	親しい	33	25
	民間借家	0	3		まあまあ親しい	9	16
	公営住宅	3	1		挨拶程度	8	6
居住年数	0～9年	8	5		交際無し	1	0
	10～19年	12	7	子供の 有無	有	39	41
	20～29年	9	9		無	12	7
	30～39年	4	5	子供との 別居距離	同地区内	22	9
	40～49年	7	13		県内	5	18
	50年以上	11	8		県外	12	14
独居年数	0～9年	16	16	親子の 面会周期	毎日	5	3
	10～19年	21	12		週数回	16	4
	20～29年	9	11		月数回	5	18
	30～39年	3	4		年数回	9	11
	40年以上	2	4		数年に1回	2	3
集会への 参加	不参加	18	13	親しい 親友数	0人	21	18
	老人会のみ	21	5		1～2人	16	20
	老人会+他会	5	13		3～4人	10	7
	他会のみ	7	17		5人以上	8	3
独居理由 類型	積極的独居	自立して生活できるから				11	6
		誰にも気兼ねしなくてよい				9	4
		今の地域に馴染んでいる				4	1
	消極的独居	子供が一緒に住もうとしない				3	0
		子供の経済が苦しい・子供宅が狭い				1	3
		子供に迷惑をかけたくない				2	3
		子供が帰省しても職がない				2	4
		都会に行っても話し相手がいらない				0	3
	保守的独居	家（本家）がある				0	3
		墓を守らないといけな				0	2

- ・精神的側面の質問項目
- 独居について\* 緊急時の対処について 信念・  
こだわり\* 不安な要因\*
- ・住環境（住宅内部プラン・住宅周辺環境）\*
- （\*印は鹿児島市調査時には行っていない項目）

4. 調査結果の分析及び考察

調査結果の分析内容は以下のように分類する。

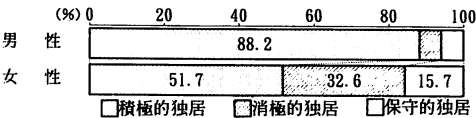
- 4-1. 独居高齢者の個々人の属性について
- 4-2. コミュニティと独居高齢者に関して
- 4-1. 独居高齢者の個々人の属性について

第1節においては、独居高齢者の個人的な項目について分析及び考察を行っている。

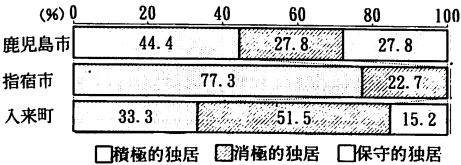
4-1-1. 子どもとの関係

調査対象者151人のうち、子どもがいたのは120人であった。

最寄り子どもとの関係をみると、別居距離が近いほど頻繁に対面していた。これは鹿児島市、指宿市、入来町の3地区とも同様の結果を得ている。子どもとの対面はその別居距離と密接に関係しているということがわかる。



【図1】 性別にみる独居理由



【図2】 地域別にみる独居理由

次に子どもと生活を送らない理由を分析し、回答を以下の3つに類型して分析を行った。【表3】

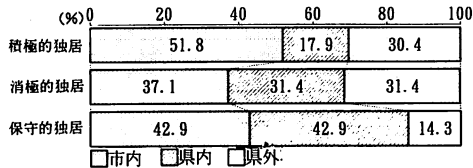
- ・積極的独居…高齢者個人の積極的な意志によるもの（気楽、自由など）
- ・消極的独居…子どもに迷惑をかけられない、又は子どもの意志によるもの
- ・保守的独居…家や墓など守るべきものがあるためのももの

全体では、積極的独居は51人、消極的独居が34人、保守的独居が15人であった。積極的独居である人の割合が全体の51.0%と高い割合になった。

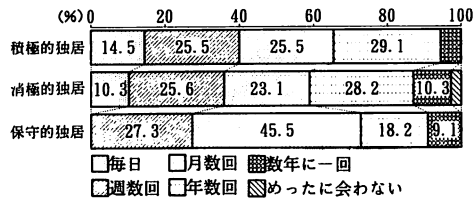
性別にみると、男性の方が女性よりも積極的独居である人の割合が高い。一方、消極的独居と保守的独居である人の割合は女性が男性を上回っている。男女間で違いがあることがわかる。【図1】

年齢別にみると、保守的独居である人の割合は高齢ほど高くなっている。一方、消極的独居である人の割合は高齢ほど低くなっている。

地域別にみると、鹿児島市と指宿市においては積極的独居である人の割合が高いのに対して、入来町においては消極的独居である人の割合が高い。消極的独居であると回答した人の中で、「子どもが帰省して来ても就職口が無い」と回答した人6人がすべて農村的性格をもつ指宿市2人及び入来町4人であり、都市的性格が強い鹿児島市にはいない。指宿市及び入来町においては、子ども達がUターンできる条件が整っていないことが、独居高齢者という家族構成をつくる一つの要因となっている。指宿市においては保守的独居である人が少なく、家や墓といった守るべきものの存在によって、生活が縛られていなかった。また積極的独居である人の割合が高くなっているのは、指宿市が気候にすぐれた温泉リゾート地であることに関連があるのではないか。【図2】



【図3】 独居理由と子供の別居距離の関係



【図4】 独居理由と子供との対面周期の関係

最寄りの子どもの別居距離とクロスさせて分析すると、積極的独居の人の中で、最寄りの子どもが同地域内に在住している人の割合が51.8%と半数以上を占めている。一方消極的独居においては、最寄りの子どもが同区域外に在住している人の割合が高い。【図3】

最寄りの子どもとの対面周期でみると、積極的独居である人は消極的独居である人よりも、対面周期が短くなっている。【図4】

これらの事から、独居高齢者が積極的または消極的に生活を営む場合、子世帯の別居距離、子どもとの対面周期が重要な一要因となっていることが明らかになった。

#### 4-1-2. 独居であることへの考え

調査対象者にとって「独居であること」の利点と欠点を回答してもらった。

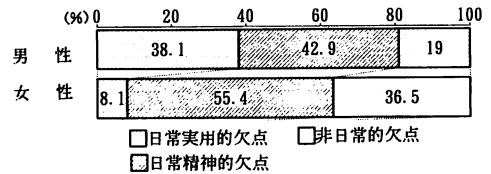
まず「独居であることの利点」に関して、鹿児島市においては分析結果から『だれからの束縛のない生活の保障』となっていた。本調査地域においても同様な結果を得た。「だれからの束縛もない生活」ということは、自分の生活に関しては自ら責任を持つということであり、研究の目的で記した高齢者の要望と一致した結果となった。

次に「独居であることの欠点」がないと回答しているのは、指宿市10人(19.6%)、入来町6人(12.5%)であった。

「独居であることの欠点」があると回答した人の理由(複数回答)を、3つに類型し、日常生活の実用的な事象に欠点があるものを「日常実用的欠点」、日常生活において精神的側面に生じる欠点を「日常精神的欠点」、非日常的な理由による欠点を「非日常的欠点」とした。【表4】

【表4】 独居であることの欠点

類型	内容	(単位:人)	
		指宿	入来
日常実用的	裁縫や料理などができない	7	5
日常精神的	相談相手がない	2	8
	寂しい	15	16
非日常的	病気時の心配	2	13
	緊急時の心配	3	4
	犯罪に対する心配	0	5
	自然災害時における心配	4	9
その他	来客時にいないとき etc.	6	6
無し		11	6



【図5】 性別にみる独居であることの欠点

まず全回答の88.6%の回答が精神的(日常精神的・非日常的欠点内容)な事象を欠点としている。

性別にみると、男性は日常実用的欠点を挙げる人の割合が女性より高く、女性は自然災害等の不安等といった精神的側面に欠点とする人の割合が高い。男女間で独居である事の欠点において考えが異なる。【図5】

回答項目の中では、相談相手がない・病気時の心配など、ある意味独居高齢者特有の問題があった。今後これらの問題にいかに対処すべきか検討する必要がある。またその対処策における提供機関や利用手続きなどについて、情報を得やすいシステムづくりを行わなければならない。

#### 4-1-3. 健康面に関して

健康状態をきいた結果、139人が回答し、健康である人73人(52.5%)、無理は出来ないが健康である人48人(34.5%)、病気がちな人17人(12.2%)、寝たきりの人1人(0.1%)であった。

健康状態を通院状況からみると、4人に3人の割合で通院をしていた。

病状から生ずる生活への支障があると回答している人の割合は、地区別に関係なく、約30%前後いる。

その支障内容については、身体機能の低下に伴った支障が多く、「出歩くことができない」や「趣味・仕事ができない」といった回答であった。

これらの現状を踏まえ、送迎システム等を強化し、高齢者が社会参加に疎遠になる原因を是正するなど、高齢者福祉サービスの内容を再度検討する必要性がある。【表5】

【表5】 病状による生活支障内容

病状による生活への支障内容	(単位：人)		
	鹿児島	指宿	入来
体調が優れない	0	2	1
重労働ができない	3	2	1
歩行困難で出回ることができない	5	4	4
食事療法をしなければならない	0	1	2
趣味活動・仕事の断念	5	0	0
仕事量が低下した	1	0	1
その他	0	6	2

## 4-1-4. 経済について

全調査地区の独居高齢者の月平均支出額は79,469円であった。1979年時の65歳以上の独居高齢者の月平均支出額が77,759円であり、一般世帯の支出額の増加率はこの15年間で1.04%（1979年時を100%とする）であるのに対し、調査地区の独居高齢者の支出額増加率は1.02%と一般世帯に比べ低い伸び率となっていた。特に、指宿市における独居高齢者の月平均支出額は77,889円と3地区中、一番支出額が低かった。これは、指宿市においては交際費の支出額が他の2地区よりも少ない為であると考えられる。<sup>\*3</sup>【図6】

地域別に費目支出割合をみると、鹿児島市、指宿市、入来町の順で住居費・光熱費・食費の割合が低くなっている。

交際費においては、指宿市が一番低い額になっている。これは後記している友人関係及び集会への参加状況との関係からみて、地域的に友人数にあまり差がないにもかかわらず、指宿市は他の地域に比べて老人会以外の集会に参加している人の割合が少なくなっているため、交際費が少額になっているのではないかと推察される。

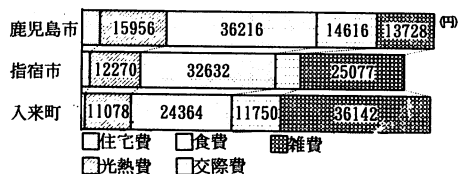
雑費（分割費目以外の費目）においては、鹿児島市、指宿市、入来町の順に高くなっていた。これは、入来町における独居高齢者の月平均支出額に対する月平均保険費の割合が11.7%と高いことに起因していると思われる。【図7】

## 4-1-5. 住宅について

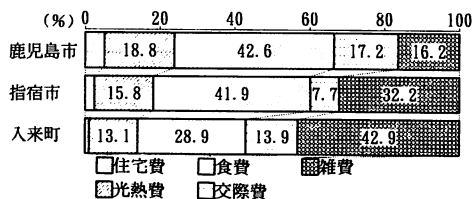
地区別にみる独居高齢者の持家持地率は、鹿児島市で76.9%、指宿市で92.2%、入来町で91.7%であった。

次に住宅内部の危険・不満箇所をあげてみると、玄関や各室間の段差と回答した人が多く見られた。これは高齢に伴う身体機能の低下による不安と考えられ、住宅が独居高齢者自身に対応していった現状がうかがえる。

そこで近年の住宅内部の改善について回答してもらった結果、指宿市及び入来町においては、昔ながらの農家住宅（馬屋・土間・五衛門風呂等）に住み続けてい



【図6】 地域別にみる月平均支出額



【図7】 地域別にみる費目支出割合

【表6】 住宅内部の危険・不満箇所

住宅内部の危険・不満箇所	(単位：人)	
	指宿	入来
玄関及び各室の段差	8	11
住宅が狭い	0	2
住宅の老朽（自然的、害虫等理由）	3	3
住宅の雨漏り	0	2
その他（床が滑りやすい、日当たりが悪い、広い等）	10	4

るケースが多かったことから、土間の排除、トイレ、風呂を住宅内部に設置するといった実用性重視を目的とした改善が多くみられた。また自然災害（台風など）による被災箇所の改善といった回答もあった。これらの改善は、排泄や入浴などの住宅内における最低限必要な基本的な行動場所の確保をすることに主体がおかれており、快適性充実を図るも改善はいいがたいものであった。【表6】

これらのことから、指宿市及び入来町の独居高齢者の住宅は、日常的である基本的な生活行動のための空間確保が限界範囲であり、個人的な生活空間の質の向上を図るのは困難な状況になることを示している。

社会背景として、高齢者、特に独居高齢者に住宅の確保が困難な層が多く見られる。このような高齢者に対し、行政が手を差し伸べる必要性は大きい。たとえば、アパートの借り上げ方式による高齢者住居の確保、民間賃貸住宅の入居を公的機関が保証する制度、さらに、最近いくつかの自治体で制度化している家賃負担補助制度も安定した居住の重要な政策の柱になってくる。またそうした居住安定のみならず、本分析結果を踏まえ、住宅の老朽化にも注意を払いながら、現住居における生活空間の質の向上を図った住居対策（公営

住宅の現在の在り方を再検討する等)を同時に促進しなければならない。

#### 4-1-6. 住宅周辺環境について

住宅周辺環境で問題視されているものの1つに、自然災害による住環境への不満があげられた。【表7】

鹿児島県は、位置的に通常台風の進行経路下にあり、さらに昨年の長雨とが重なって、調査期間中、住宅周辺の環境がかなり悪化していた。そうした住宅周辺環境に対して、改善を施している住宅は皆無に近く、危険箇所がそのまま放置されている状態で、今年の自然災害によってさらに悪化していくことが予想される。

現状の高齢者福祉対策において住居内部の改善、ことさらに在宅福祉サービスを考慮した政策は進行しているが、住宅周辺に目を向けられた計画はない。今後この問題に対してどのような整備を行うかが課題となる。

また自然災害など緊急の際の、コミュニティ内における情報伝達システム・避難援助システムを再度検討し、高齢者の安全を確保せねばならない。

#### 4-2. コミュニティと独居高齢者に関して

第2節においては、コミュニティと独居高齢者のかかりについて分析・考察を行った。

##### 4-2-1. 就業状況

『就業』という形式は、就労所得を得ているかいないかによって類型し、分析・考察を進めた。

まず全調査対象者の就業率は13.2%であった。地域別では鹿児島市が13.5%、指宿市が15.4%、入来町が10.4%であり、就業率に地域差は見られなかった。

性別の就業状況は、男性28.6%、女性10.8%と男性の就業率が女性の就業率を上回っていた。

これを地域別に分析すると、鹿児島市と入来町では男女差がほとんど見られないのに対して、指宿市においては男性の就業率が顕著に上回っている。指宿市の男性の職業は農業2人、商店経営1人、医者1人、理髪店1人、学習塾1人であった。【図8】

年齢別にみると、鹿児島市においては高齢になるにつれて就業率は下がり、入来町においては75歳以上において就業している人はいない。一方、指宿市においては65～69歳の高齢若年層を除けば、高齢になるごとに就業率が上がるという結果となった。【図9】

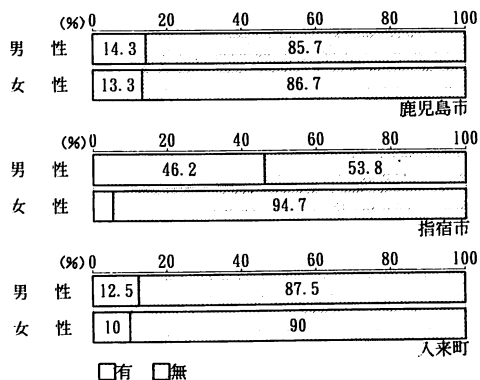
これらのことから指宿市においては、就業に関して他の2地区と違った特性をもっていることがわかる。

##### 4-2-2. 集会への参加状況

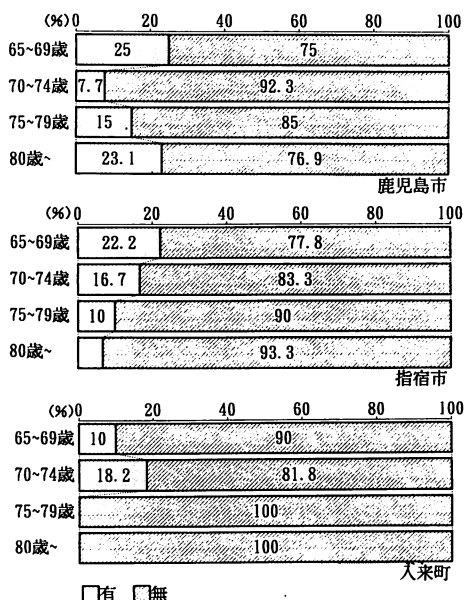
集会へ参加している人は110人であった。参加していない人は41人で、全体の37.3%であった。老人会に

【表7】 住宅周辺環境の不満点

住宅周辺環境の不満点		(単位:人)	
	指宿	入来	
裏の崖崩れが心配である	10	3	
前面道路からの騒音	4	1	
自然災害時の住宅の耐久性	7	3	
住宅周辺の水捌けが悪い	3	1	
アプローチ道路が狭い	2	0	
その他(スーパーが遠い、機械騒音、周辺の坂等)	0	5	



【図8】 各地域内性別にみる就業状況



【図9】 各地域内年齢階級別にみる就業状況

参加している人は77人であり、集会に参加している人の中の70%と高い割合となった。そのため老人会を軸に、老人会以外のさまざまな集会を他会として以下のように大別した。

- ・参加していない
- ・老人会＋他会
- ・老人会のみ
- ・他会のみ

老人会のみ参加している人は44人、老人会・他会ともに参加している人は33人、他会のみに参加している人は33人であった。

まず健康状態からみた集会への参加状況は、健康状態がすぐれていると回答した人は、集会に参加している人の割合が高く、逆に病気がちな人は、集会へは不参加である人の割合が高くなった。「健康面に関して」で述べたように、病気がちな人ほど社会参加に消極的になっている。

次に性別で集会への参加状況を見ると、男性の方が女性より参加していない人の割合が高い。男性は集会への参加に消極的と考えられる。【図10】

また年齢別にみると65～69歳を除いて、高齢ほど他会へ参加している人の割合が高くなっている。子どもとの関係において分析したとおり、高齢ほど消極的の独居が少なくなり、積極的の独居が多くなっていたが、集会への参加という存在がその一因として存在しているようにみえる。【図11】

さらに地域別にみると、老人会参加の割合が高いのは鹿児島市、指宿市、入来町の順であった。他会においては指宿市、鹿児島市、入来町の順で高くなっている。とりわけ入来町においては、他会への参加の割合が62.5%と高い。入来町においては他の2市に比べ他会の活動が活発に行われているといえる。【図12】

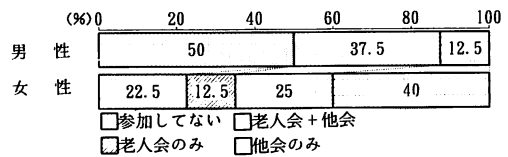
他会の内容をみると、大正琴、母子寡婦会、宗教関係、生け花、カラオケなど多岐にわたる。鹿児島市においては主なものとして宗教関係のサークルに参加している人が7人、大正琴、ちぎり絵がそれぞれ3人。指宿市においては寿大学（老人大学）という、趣味活動だけではなく、政治・経済・社会問題など高いレベルの講座が開かれており、そこに通学している人が4人、カラオケのサークルが3人などである。入来町においては大正琴8人、母子寡婦会8人、編み物6人、俳句・短歌4人、婦人会4人など、他の2地区より他会の種類が豊富であった。

#### 4-2-3. 隣人関係

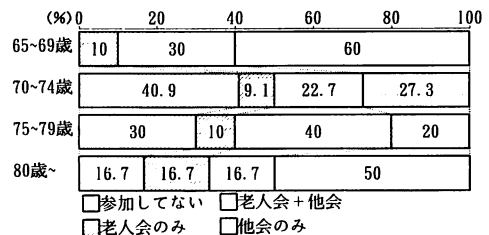
隣人関係を次の4つに分類し、調査・分析を試みた。

- ・親しい関係である
- ・まあまあ親しい関係である
- ・挨拶程度である
- ・無し

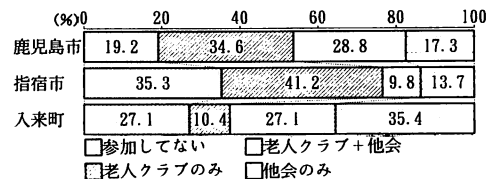
全体にみて、親しい関係であると回答した人が83人、まあまあ親しいと回答した人が34人、挨拶程度と回答した人が31人であった。無しと回答した人が3人で、



【図10】 性別にみる集会への参加状況



【図11】 年齢階級別にみる集会への参加状況



【図12】 地域別にみる集会への参加状況

全体の2.0%の割合と低く、ほとんどの人が隣人関係はあると回答している。無しと回答している人は、2人が鹿児島市、1人が入来町であった。

地区別にみると、親しい、まあまあ親しいという隣人関係に積極的な人の割合は、農村的性格の強い入来町において最も高く、逆に都市的性格の強い鹿児島市においては低くなっていた。

性別にみると、女性の方が男性よりも親しいと回答している人の割合が大幅に上回っている。これは3地区とも同様の結果であり、女性の方が男性よりも隣人関係において積極的であるといえる。

年齢別にみると、65～69歳を除き高齢ほど挨拶程度であると回答している人の割合が増えている。高齢ほど隣人関係が希薄になっていた。

次に、老人会活動が地区毎に行われている場合が多いことから、老人会の参加状況と隣人関係とをクロスさせてみる。

鹿児島市と指宿市においては、老人会に参加している人の方が隣人関係が親しいと回答している人の割合が高くなっている。

一方、入来町においては、老人会に参加していないと回答している人の方が、隣人関係において親しいと

回答している人の割合が高い。これは、入来町における老人会の在り方が他の2地域とは違い、老人会への参加にも関わらず、隣人関係が昔ながらの農村型コミュニティに支えられているためといえよう。【図13】

#### 4-2-4. 友人との関係

ここであげる友人とは、内心(心配事・相談事等)を打ち明けられるような人のことをさし、この意味で調査対象者の回答を得た。

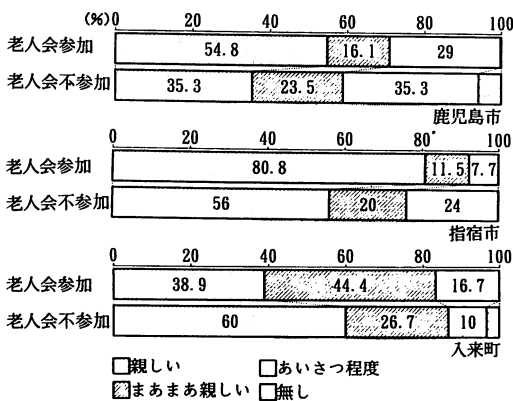
友人がいないと回答した人が49人と全体の31.6%の割合となり、友人数が1~2人と回答した人が一番多く63人で全体の40.6%となった。【表3】

性別にみると、友人がいないと回答している人の割合は男性が女性を上回っている。これは3地区とも同様の結果であった。この結果と先の隣人関係の分析結果を考慮すると、対人関係においては女性の方が男性よりも積極的であることがわかる。【図14】

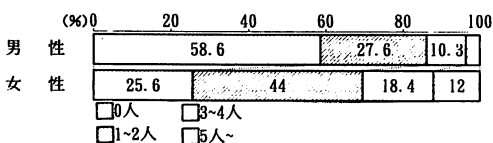
年齢別にみると、友人がいないと回答している人の割合が高齢ほど高くなっている。

集会の参加状況と友人数とをクロスさせて分析すると、集会に参加している人の方が参加していない人よりも友人数が多くなっている。

老人会への参加状況からみると、鹿児島市においては老人会に不参加の人の方が、老人会に参加している人よりやや友人数が多くなっているが、指宿市においては老人会への参加状況と友人数に関係は見られない。



【図13】 各地域内老人会参加状況にみる隣人関係



【図14】 性別にみる友人関係

入来町においては他の2地区と違い、老人会へ参加している人の方が、老人会へ参加していない人より顕著に友人数が多くなっている。

このことから鹿児島市、指宿市においては友人数と老人会とはほとんど関係がなく、入来町においては老人会の在り方が、友人関係において密接なものとなっている。【図15】

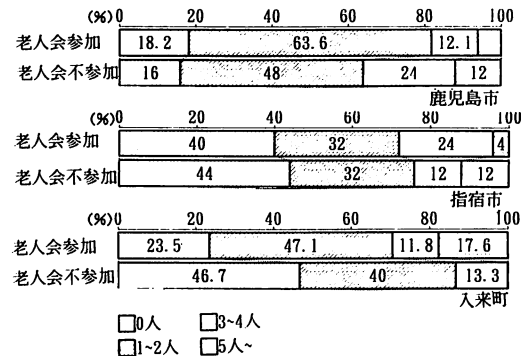
次に他会への参加状況と友人数をクロスさせて分析すると、3地区とも他会へ参加している人の方が、他会に参加していない人よりも友人数が多くなっている。

このことから、老人会といった地域的な集会(老人会)よりも、高齢者の自発的な意志によって参加する集会(他会)の方が、集会内での仲間意識(連帯感)が強くなることが把握できる。【図16】

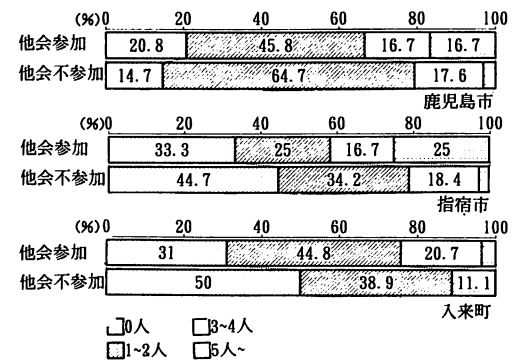
#### 4-2-5. 行政からの支援・サービス

調査対象者のほとんどが年金を受けていた。年金を受けていない人3人がすべて鹿児島市の人であり、その人たちは生活保護を受けている。すなわち、独居高齢者はすべて公的な経済的支援を受けていた。

地区別にみて、鹿児島市においては指宿市、入来町



【図15】 各地域内老人会参加状況にみる友人関係



【図16】 各地域内他会参加状況にみる友人関係



と違い、年金、生活保護、ホームヘルパー、デイサービス以外のサービスを受けている人はいなかった。

鹿児島市が他の２地区よりも極端に人口が集中している地区であるため、多数の高齢者にサービスが対応仕切れていないためとも、またこの４つのサービスで十分であるためとも考えられる。しかし、現在本当に鹿児島市において、この４サービスで十分な対応ができていないかは疑問が残る。

指宿市及び入来町における上記以外の支援の内容をみると、乳酸飲料の配布を受けている人が指宿市で25人、入来町で34人と多い。これは各市、町が乳酸飲料を独居高齢者に直接配布することで、独居高齢者と会話し、独居高齢者の安否を気遣うことをこのサービスの目的としている。

また指宿市、入来町ともに温泉地であるが、入来町は指宿市では行っていない高齢者への温泉入浴券の配布を行っている。これを受けている人は入来町の調査対象者48人のうち40人とかなり高い割合であり、内向的になりがちな独居高齢者に対する社会参加運動の一環、身体の清潔を保持する事を目的としてサービスを行っていた。

指宿市と入来町では通話式インターホン・緊急電話の設置のサービスを行っており、指宿市においては2人、入来町においては4人、計6人がこの設置を受けていた。その中で、緊急時にそのサービスを利用すると回答した人は5人であった。

そのほか指宿市では針・灸等の施術料の補助、日常生活用具の貸し付け・給付、手押し車購入費の補助、入来町においては買い物・病院・老人会への送迎、給食サービスなど生活用品・生活行動の補助をするサ

【表８】 行政からの支援・サービス

(単位：人)

	鹿児島市	指宿市	入来町	計
年金	49	51	48	148
ホームヘルパー	1	3	2	6
デイサービス	3	1	1	5
乳酸飲料配布	2	5	9	16
針・灸等の施術料の補助	0	25	34	59
緊急電話等	0	2	4	6
日常生活用具の給付・貸付	0	1	0	1
手押し車購入費の補助	0	7	0	7
敬老年金	0	7	0	7
入浴券の配布	0	0	40	40
給食サービス	0	0	2	2
病院往復送迎	0	0	3	3
買い物往復送迎	0	0	1	1
老人会往復送迎	0	0	1	1
その他	0	2	0	2

ビスが見られた。【表８】

#### 4-2-6. 緊急時の対処

緊急時の対処を考慮している独居高齢者は、全体で149人(98.0%)いた。その際、通報手段としては、電話、通話式インターホン・緊急電話(公的機関配給の緊急通報)システムを使用している人が147人いた。そこで、緊急時の際の第一通報先を回答してもらい、その回答結果を以下の４つに分類し分析した。

- ・親族：血族関係者
- ・隣人、友人：一般の民間人
- ・民生委員：社会福祉の増進のために、地域住民の生活状況の把握、生活困窮者の保護指導、福祉事務所が行う業務への協力などを職務とする者
- ・公的機関：役場、消防署など

全体では半数以上の80人(53.7%)が親族に電話をしていた。行政が認定している民生委員に通報すると回答したのはわずかに5人(3.7%)で、緊急時に際しての民生委員の在り方が問題視される結果となった。

地域別にみると、親族に通報している人の割合は指宿市において高い値を示している。逆に、鹿児島市及び入来町においては、隣人・友人に通報している人の割合が高い。【図17】

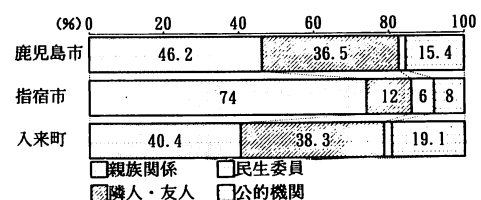
年齢階級別では、75～79歳間が親族に通報している人の割合が67.5%と高くなっている。

性別の緊急通報先は、親族に通報している人の割合が高くなっているのは女性より男性であり、女性においては隣人・友人に通報している人の割合が男性の割合より上回っていた。【図18】

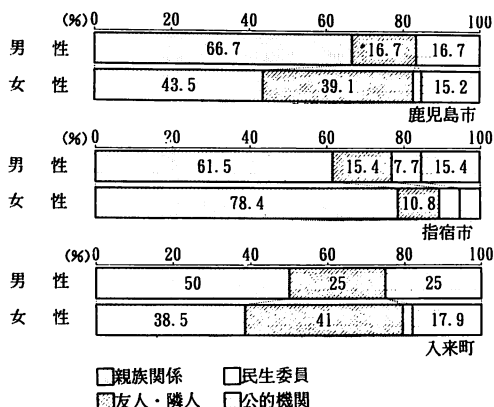
先に記した通話式インターホン・緊急電話については、緊急時の利用方法として考慮している人の割合が高かった。緊急通報システムの体系化は、各市町村及び民間事業として展開しているが、自立して生活を送る高齢者にとっては必須サービスであり、総合的なサービスの体系化を今後行っていかなければならない。

#### 4-2-7. 買い物圏

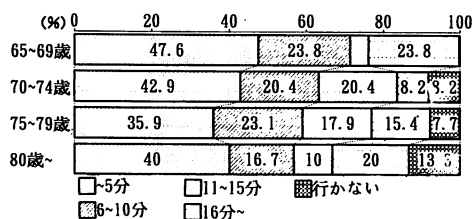
自らが買い物に行かないと回答した人が11人で、全



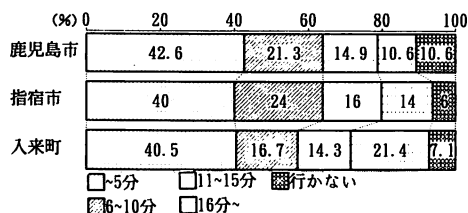
【図17】 地域別にみる緊急通報先



【図18】 各地域内性別にみる緊急通報先



【図19】 年齢階級別にみる要買物時間



【図20】 地域別にみる要買物時間

体の7.3%であった。これらの人々は、子どもや近隣の親戚に買って来てもらうなどと回答していた。

買い物を自ら行っている人のうち、買い物に要する時間が5分以内と回答している人が一番多く57人で、全体の37.7%であった。

男女差でみて大差は無い。

年齢別にみると、高齢になるにしたがい、やや買い物に時間をかけるようになっていく。これは身体機能の低下によるものと考えてよいだろう。また各階級とも、5分以内と回答している人は30%以上の割合になっている。また高齢ほど自ら買い物に行かないと回答している人の割合は高い。これらは身体機能の低下による原因が大きいものとみなしてよいだろう。【図19】

地域別にみると、鹿児島市、指宿市、入来町の順で

買い物に時間をかけている。これは、都市的性格をもつ鹿児島市においては自宅周辺に適した購入施設が多くあるのに対して、農村の性格をもつ入来町は自宅周辺に適した購入施設が少ないためといえよう。【図20】

## 5. まとめ

3地区の独居高齢者を調査・分析することで、以下のような知見を得ることができた。

- ① 独居高齢者と子どもとの関係には密接な関係があり、子どもの別居距離、子どもとの対面周期が、独居高齢者が独居であることに対して、積極的にも消極的にもなる要因を含んでいる。
- ② 独居高齢者であることの利点は、個々人の意志に即して生活を送れるという、現実的事象にあった。しかし、欠点をみると、将来の展望（身体的・精神的弱体化等）の不安を感じている。
- ③ 身体機能の低下により外出できない人や、病気がちな人は、健康な人に比べ集会活動にはあまり参加しておらず、内向的になっている。
- ④ 現住宅内部において、不満・危険箇所が多く存在しているが、改善されている箇所は少ない。
- ⑤ 住宅内部の改造が独居高齢者には限界範囲であり、住宅周辺環境は悪化傾向をたどっている。
- ⑥ コミュニティの相違によって、集会及びサークル活動の在り方・内容が違い、隣人・友人関係に影響を与えている。
- ⑦ 行政との関係は、経済的援助が最も密接であった。また福祉サービス内容において、地域間で相違がある。
- ⑧ 対人関係において、男性より女性の方が積極的な付き合いをしている。

本研究で独居高齢者の総体的な特徴、コミュニティ環境別、性別、年齢別から生ずる生活実態・対人関係の相違が明確化した。

## 参考文献

- \*1 野村 敏・高山忠雄：長寿社会総合講座 高齢者の住環境，1993. 12.
- \*2 友清貴和・佐藤洋一：鹿児島市における独居高齢者の生活実態について 高齢者が自立できる社会形成に関する研究，鹿児島大学工学部研究報告第35号，1993. 9.
- \*3 総理府統計局：全国消費実態調査報告書，1979.